

受賞者名簿及び功績概要

【功績表彰】

※敬称略

受賞団体名 (代表者職氏名)	功績の概要
米子市 米子市尚徳公民館 (館長 田中 通雄)	平成30年西日本豪雨災害によって尚徳地区青木で7月10日午前1時45分頃、住家を巻き込む土砂災害が発生し、地元消防団から避難の必要がある旨の連絡を受け、市が避難所として開設する前に公民館をいち早く開けることを決断、避難者を受け入れる体制を構築するとともに、土砂災害の現場付近の世帯に避難を呼びかけ、非常に速やかな被災者の安全確保、保護に尽力した。 また、市からの支援物資が行き届く前に、地域に呼びかけし避難者に対して独自の炊き出しを行って食料を提供するなど避難者への支援を率先して行った。

【功労表彰】

※敬称略

受賞団体・個人名 (団体：代表者職氏名)	功績の概要
鳥取市 米里地区自主防災会 連絡協議会 (会長 上田 徹)	米里地区は鳥取市の中でも広大な面積を有する地域であり、加えて多様な地形を有しており、また高齢者の割合も高い。特に雲山地区は大路川と新袋川に挟まれており、地盤が低く且つ軟弱であるため集中豪雨時の水害被害が最も懸念される。 そのため地域の防災意識はかなり高く、実情を踏まえた避難訓練や消火訓練等を毎年全11地区でそれぞれ実施し、積極的に活動をしている。 また、11地区全体の訓練も毎年1回実施しており、平成22年度に大規模災害避難訓練や図上訓練などを行って以来、毎年訓練に約60人参加するなど、住民の自主防災意識は高い。平成25年に「米里地区防災・防犯マップ」を作成し全戸配布を行うなど、地域防災力向上のため日々活動している。
米子市 上後藤一区防災会 (会長 荒鷲 正勝)	平成20年度から毎年総合防災訓練を計画し、避難訓練から初期消火、傷病者搬送、煙体験、炊き出し、ロープワーク等一連の流れで訓練を実施している他、平成24年度から机上訓練も毎年行っており、町内を巡回し、危険箇所の有無を確認したあと、地図に反映し住民に周知する取り組みを行っている。防災マップでは、消火栓、消火器、AEDの設置箇所や独居世帯等を記載しているほか、災害時は複数の班ごとに一次避難場所を決め、安否確認を行う仕組みを構築している。 また、地域の企業（福祉施設）と災害時の協定を締結しており、災害時の避難場所を独自に確保しているほか、相互が行う防災訓練には、必ず参加者を出すなど、互いに協力しながら防災活動を行っていること等、地区全体で防災に取り組む姿勢は、地域防災力の向上に大いに貢献しており、他の模範である。
倉吉市 生田自治公民館 (館長 難波 誠)	自主防災会を中心とした防災訓練を年に2回実施しており、支援者、要支援者にも参加していただき、災害時に誰が誰を支援するのかを支え愛マップで確認し、支え愛マップを毎年更新している。 また、中部地震の時、町内に人が居なかったという教訓から女性や退職者等を中心に協力員制度を設けて、年に4回の訓練や要支援者訪問等を行っている。さらに、全家庭に防災チラシを作成し、配布する等、活発に自主防災活動を行っている。
倉吉市 国府自治公民館 (館長 小谷 隆一)	有線放送設備を各戸に設置しており、有事の際は、地震、大雨、避難所の開設状況等を放送で知らせており、定期的に消防団が設備点検、修繕を行っている。平成28年10月の鳥取県中部地震の際には、住民に迅速に地震の状況を伝達し、避難所へ誘導する等、有線放送設備が機能した。 また、平成25年から、福祉協力員制度を設け、独居高齢者世帯等に避難経路の確認、有事の際の避難体制を注意喚起している。 さらに、平成29年5月に、鳥取中部地震や平成29年2月の豪雪の経験をもとに、住民同士の意見交換会を実施。そこでの意見を受けて、同年6月にハザードマップ、同年7月に支え愛マップを作成した。作成したマップに基づく水害を想定した避難訓練を実施。訓練においては安否確認のほか、炊き出し訓練や非常食の試食体験も実施するなど、住民の防災意識の高揚、町内防災力の積極的な向上に努めている。
湯梨浜町 橋津区防災会 (会長 赤本 哲夫)	平成10年10月に橋津区防災会を設立、平成25年1月に防災会要領等を作成し毎年の防災訓練等を計画実施し、反省会における改善事項に基づき要領等の見直しを行い、防災意識の高揚に努めている。 また、防災訓練内容は、地震・津波対応の訓練と東郷池・橋津川の洪水・氾濫対応の訓練を隔年で行うとともに、橋津区の12班ごとに、それぞれの地域で消火訓練（消火栓にホースを繋いで放水する訓練等）を行い、地域の防災力向上を図っている。